

Life runneR in Takashima

～10人の物語～

Life runneR in Takashima
2021年3月発行

取材／滋賀県立高島高等学校・滋賀県立安曇川高等学校

生徒 有志11名

取材協力／市内事業者の皆さん

企画・制作／LYS株式会社

高島市役所 市民生活部 市民協働課 定住推進室

〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畠565

TEL:0740-25-8526 FAX:0740-25-8156

Mail:kyoudou@city.takashima.lg.jp

インタビュー企業MAP

高島市内の様々な業界と仕事

今回、インタビューさせていただいた人たちの働く場所をMAPにしました。



01 SAWAMURA (建設業)

02 藤波こども園 (保育)

03 高島市役所 (公務)

04 和ろうそく大興 (伝統工芸)

05 松井建設株式会社 (林業)

06 株式会社リハビリライフ (介護)

07 医療法人マキノ病院 (医療・看護)

08 株式会社ヤサカ (福祉用具・食品)

09 Northstyle奥琵琶湖 (アウトドア)

10 株式会社ホリゾン (製造業)



(ライフランナー) Life runneRに込められた想い

仕事を通じて、人生を格好よく駆け抜ける Life runneR(ライフランナー)

高島市には左(Left)にも右(Right)にもたくさんの素敵な人たちが活躍しています。

そんな人たちの働き方を多くの人に知って欲しい。そんな想いからこの冊子のタイトルを付けました。

01 各業界から
サガス

私たちが通う高島市には様々な業界、仕事があることがわかりました。自分たちで話し合い、できるだけたくさんの企業、役職の方をピックアップしました。

02 対話の中から
ミツケル

その企業で働く“人”にフォーカスし、1問1答形式のインタビューでなく、会話(対話)の中から、仕事の魅力やその企業、役職の方をピックアップしました。

03 動画でも
ツタエル

文字で紹介できる内容は限らるため、対話の中からおもしろいと思った部分や心に触れた内容は動画でも撮影しました。QRコードを読み込むとその動画を閲覧できます。

建設業



(高島高校生 取材・執筆)

01 Interview | SAWAMURA 代表取締役 澤村 幸一郎 さん

きっかけを創造する



建設会社の社長として働く澤村さん。代表的な建築物にびわ湖テラスやびわこ箱館山のパフェ専門店LAMPなどがある。掲げているテーマは『きっかけを創造する』。建築を通じてお客様にワクワクを提供したいのだそう。そのために目標を明文化しているようだ。また現場との接点を多く持つことを意識していると語る。

なぜならアイデアは現場から生まれると考えるから。社員にフラットに関わることでコミュニケーションを増やしているという。現在の社内のアットホームさもこれによるものが大きいようだ。一言では言い表せないものを作っていくことが私たちの仕事だと語る。新たなきっかけを生み出すために、これからも挑戦は続く。

保育士



(安曇川高校生 取材・執筆)

02 Interview | 藤波こども園 保育士 家本 侑奈 さん

自分らしく 子どもに寄り添う



元々子どもが好きで、中学校の時の福祉体験で藤波幼稚園に行ったとき、年上の子が年下の子に優しくかかわっている姿を見て、自分も子どもたちを守っていきたいと思い就職した家本さん。こども園は、0～5歳の子どもを受け入れており、3～5歳の幼児には縦割りで保育をしている。この場所は自分から主体的に動いて輝ける場面が

たくさんある。だから、子どもたちが自分らしくありのままの姿で安心して楽しく過ごせるように、どんなときも子どもたちの思いに寄り添うことを心掛けているそう。将来は、「高島の自然とともに、地域・職員・保護者の人に助けてもらいながら、一緒にこの高島で子育てていきたい」と穏やかな表情で語る。



公務員

(高島高校生 取材・執筆)

03 Interview | 高島市役所 企画広報課 堀居 祐圭 さん

あなたは地元が
好きですか？



過疎化しつつある高島市の力になりたいと思い、市役所に就職した堀居さん。現在は企画広報課で広報誌の作成、防災行政無線のアナウンスをしている。幅広い年齢層の方が聞き取りやすい声質、スピードを試行錯誤する毎日。事務仕事では多くの仕事をこなすために時間配分を重視。現在の目標は様々な仕事に対応できる力を身につけるこ

と。なぜなら、公務員は3・4年で必ず部署異動をするという特徴を持つから。公務員として多くの人と関わる中で、高島市の魅力を再発見しているそう。それをもつといろんな人に伝えたいという。将来は、子育て支援が充実している高島市で結婚し育児したいと笑顔で語る。今日も、市民に情報を正確に届けている。



伝統工芸

(安曇川高校生 取材・執筆)

04 Interview | 和ろうそく大興 4代目 大西 巧 さん

「火と人」をコンセプトに
信念をもってチャレンジ



自分が本当にやりたい仕事をしたいと思っていた大西さん。いろいろな企業にいる先輩などに話を聞いた結果、父親のろうそくの話が一番面白かったため、京都のお香屋さんで3年の修行を経て、大興に。仕事はろうそくを一から作って販売すること。灯という漢字が表しているように「自然と人を繋いだもの」をコンセプトにした商品を多

く作っている。単純にろうそくを作るだけでなく自然を感じられる要素を残して伝えられるデザインのろうそくを作っているそう。売れるかどうかわからないものでも、信念をもってチャレンジしていく。大手企業ができないところに挑戦し、世界の人にろうそくを使ってもらうことが目標だと熱く語ってくれた。



林業



05 Interview | 松井建設株式会社 COO 梅本 匠さん

常に出口を意識する (着地点)



中学生の頃から将来は林業に携わりたいと考えていた梅本さん。林業の仕事の内容とは、山に入り木を切って製材すること。しかし、木を伐採する林業だけでは生業にならないと言われ、木を使用し、家を建てる大工の仕事を始めた。今でも林業を生業するために、木がどのように需要があるのかを常に意識している。例えば高島市には上質

な木がたくさんあるものの、「高島杉」のような名前のついたブランドはまだ存在しない。それらがブランド化されることで需要が増え、より多くの人に木を使ってもらえるように日々取り組んでいる。大工、製材商、伐採する人たちの視点が交わって、新しい仕事や商品の開発に繋がることがこの仕事の魅力だと語ってくれた。

(安曇川高校生 取材・執筆)



介護士



06 Interview | 株式会社リハビリライフ 生活相談員 岸田 ひとみさん

心まで利用者に 寄り添う仕事を



介護福祉施設で生活相談員として働く岸田さん。利用者との相談や介護福祉サービスの提携を行っている。なにかを『してあげる』ではなく『できるようにする』のが介護で、利用者は決して受け身の存在ではないと語る。近年、介護保険制度が充実している。しかし、職員が足りていないのが現状であると強く訴える。

原因はキツイ・キタナイなどのイメージの先行。だがメリットとして自身のライフスタイルに合わせられ、職場復帰しやすく、経験が武器になるなどを挙げてくれた岸田さん。高齢化社会において必須である介護職。若い世代の人たちに介護の実状を知ってほしいという。充実した生活を提供できるよう利用者に寄り添う。



看護師



07 Interview | 医療法人マキノ病院 看護師 萬木 佑多子 さん

心がけているのは 積極的な挨拶



(安曇川高校生 取材・執筆)

看護師に向いている人は、物事をはっきり判断でき、自分の意見を相手に言えることができる人。それは働くうえで自然に身につくことだから、興味のある人は誰にでも向いている仕事だと萬木さんは語る。つらいと思う時は、患者様の病気が見つかった時。先生から患者様のご家族への病状説明は何度立ち会っても慣れない。

しかし、患者様が名前を覚え、声をかけてもらえた時はそれだけで頑張ろうと思える。患者様への積極的な挨拶はもちろん、スタッフや、ご家族の方への挨拶、コミュニケーションも日々、意識して取ることを心がけている。今後の目標は、何事にもすぐに対応できる看護師になることだと教えてくれた。



福祉用具 食品



08 Interview | 株式会社ヤサカ 代表取締役 八坂 肇 さん

すべての人に 快適な生活を



福祉用具のレンタル・販売、介護リフォームを手掛けている会社を経営している八坂さん。今後ますます増えていく自宅で生活する高齢者。それに伴い、快適に過ごす手助けとなる福祉用具の提供により、健康寿命の延長を図りたいと八坂さんは語る。また、近年ではアレルノン食品の販売にも力を入れている。アレルノン食品とはお米由来の乳

酸菌と湧き水で作られた発酵食品のこと。法定アレルゲン28品目不使用なので、多くの人が食べることができる。腸内環境が良くなり、免疫力向上が見込めるという。今後の目標は多くの人にアレルノン商品を手に取ってもらい、健康で楽しい生活を送ってもらう事だと熱く語ってくれた。



アウトドア

09 Interview | Northstyle 奥琵琶湖 代表
古谷 仁一さん

アクティビティの 楽しみ方は無限大



民宿を営む傍ら、レジャースポーツのインストラクターをしている古谷さん。この7月から9月をメインに扱うのはS U P。S U Pとはハワイ発祥のアクティビティの1種で、ボードの上で立つ、座る、寝るといった様々な体勢をとって楽しむことができる。水上で楽しむスポーツなので、風向きなど安全確認を徹底しているという。お客様

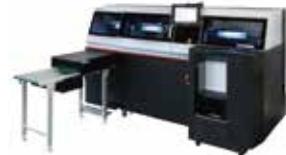
に楽しんでいただく秘訣は自分自身が楽しむこと。地元の人は、身近なところで遊ぼうという感覚をあまり持っていないと感じている古谷さん。地域の魅力をたくさんの方に届けるために、S N Sで精力的にP Rしている。もっとたくさんのお客さんに来てもらうのが、今後の目標だと教えてくれた。



製造業

10 Interview | 株式会社ホリゾン 製造部 部長
服部 康明さん

何事にも興味、関心を 持つものづくりに取り組む



デジタルを活用したものづくりに初めて触れた時、とても感動し、ここで仕事をしてみたいと思い就職した服部さん。思いついたことは自由にチャレンジできる社風であるホリゾンは、ものづくりが好きな人にはたまらない職場だと話す。働くうえで大切にしていることは、良い物を作るためには設備ではなく、機械を扱う“人”的心がけが重

要であるということ。部品一つにしても、その部品がどのような使われ方をするのか、お客様はどのように活用したいのかまで考える。将来はこの会社でデジタルを活かしたものづくりをさらに発展させたい。そして愛着のある地元の高島市で、次世代の人たちにものづくりの楽しみを知るきっかけを作りたいと語っていた。

(高島高校生 取材・執筆)

(安曇川高校生 取材・執筆)

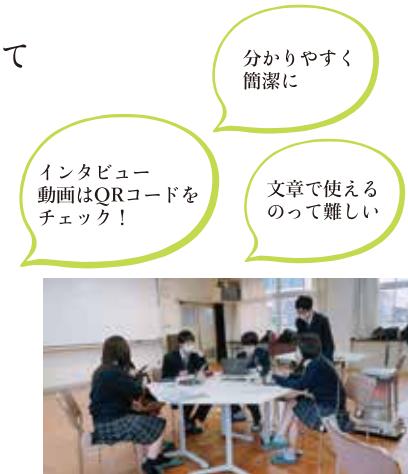
learning

取材チーム11名のたくさんの気づきと学び

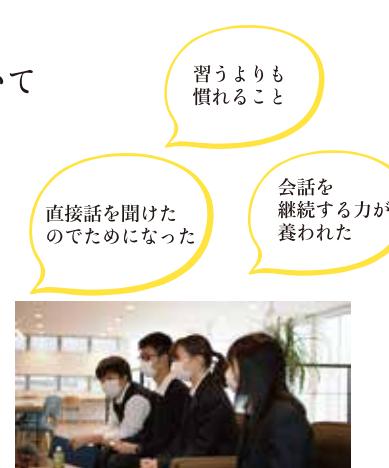
01 Selection 企業の選定について



03 Editing 編集作業について



02 Interview インタビューについて



04 Summary 全体を通じての感想

